

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 1

事業名	道徳教育推進プロジェクト		
担当課・室・班名	指導課・教育課程室	問合せ先(電話番号)	4059

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援 健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	千葉県教育振興基本計画で「道徳性を高める実践的人間教育の推進」を計画実現の施策の方向の一つとして掲げ、幼児期から発達の段階に応じた道徳教育を推進する。					
当初予算額(千円)	27年度	32,200	28年度	32,368	29年度	32,444
決算額(千円)	27年度	27,830	28年度	30,081	29年度	
財源内訳	県単(○)	全額国費	県単(○)	全額国費	県単(○)	国費25,808 県6,636

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

- ・年間1回の「道徳教育懇談会」を実施した。
- ・平成28年度は、小学校10校、中学校10校、高等学校10校、特別支援学校1校、幼稚園1園を研究校として指定し実践研究を実施した。
- ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。
- (中学校については「道徳教育パワーアップ研究協議会」と称し、実施した。)
- ・「心の教育推進キャンペーン」による公開授業の実施と実践資料集を作成・配付した。

(2)事業の成果

- ・「道徳教育懇談会」において、今後の道徳教育や発達の段階に応じた授業の在り方などについて協議できた。
- ・平成28年度は、小学校10校、中学校10校、高等学校10校、特別支援学校1校、幼稚園1園を研究校として、道徳の授業を公開し、実践研究を実施した。映像教材を活用した授業では、視聴した児童からは、「わかりやすい」「表情等から気持ちがわかる」等の感想や、保護者からは、「同じ映像を観ることで、家庭でもコミュニケーションが活発になった」等の報告が寄せられた。
- ・中学校、高等学校等の道徳教育推進教師研修会を実施した。中学校の研修会では、特に道徳の教科化に向けた国の動向等を説明した。また、県で作成した映像教材の活用説明や各校の実践事例報告があった。
- ・「心の教育推進キャンペーン」による小学校10校、中学校10校、高等学校10校、特別支援学校1校、幼稚園1園の計32校が公開授業を実施した。また、年間5回の会議を設け、各校の取組の紹介や、発達の段階に応じた授業の在り方について協議をおこなった。実践資料集「心豊かに」及び「心の啓発ポスター」を作成し、県内幼・小・中・高・特別支援学校に配付した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・県で作成した道徳教材の積極的な活用
- ・道徳の授業の一層の充実のために、道徳教育推進教師を対象とした研修会を開催する。
- ・映像教材の作成等、引き続き、発達の段階に応じた、千葉県独自の教材作成を進める。
- ・道徳教育実施状況調査を行い、映像教材や読み物教材の活用状況を把握する。
- ・道徳の教科化に向けた各校の準備を支援する。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 2

事業名	学校人権教育の推進		
担当課・室・班名	指導課 人権教育室	問合せ先(電話番号)	4066

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	各学校において、より効果的な人権教育の推進及び啓発を図る。					
当初予算額(千円)	27年度	1,099	28年度	840	29年度	840
決算額(千円)	27年度	921	28年度	721	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・学校人権教育研究協議会 全体協議会1回、地区別協議会6会場、学校人権教育担当指導主事協議会6回、高等学校協議会1回、推進校協議会5回 ・「学校人権教育指導資料第37集」(45,000部)を発行 ・人権教育研究指定校(県立高等学校1校:柏中央高等学校) ・「学校人権教育の推進に関する実態調査」の実施
--

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる人権侵害や性的マイノリティ等、喫緊の人権課題について取り上げて協議会を実施するとともに、実態調査の結果をふまえた研究協議や校種別、地区別の人権教育上の課題を討議することにより具体的に各学校で取り組むべき方策が明確にできた。 ・学校人権教育上、有用な資料や情報の提供、研修会での指導助言等により、他人を思いやる気持ちや情報モラルの育成に成果があった。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・研究協議会では、学校における喫緊の人権課題(情報モラルや性的マイノリティ等)を取り上げ、各学校が人権教育を推進する上で参考となる最新の情報を提供する。また、児童生徒の人権感覚を高めるため、参加体験型の研修形態を取り入れ、より実践的な研修内容になるよう努める。 ・指導資料の活用率を高めるよう、リーフレットという様式を継続するとともに、内容の工夫・充実を図る。

4 委員意見

--

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号

3

事業名	ちばっ子「学力向上」総合プラン		
担当課・室・班名	指導課 学力向上室	問合せ先(電話番号)	4057

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「読書活動や体験活動を通じた学習意欲の向上」「子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実」「授業力の向上による学びの深化」「学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進」「信頼される質の高い教員の育成」の5つの視点に基づき、児童・生徒の学力向上を図る事業を総合的に進める。					
当初予算額(千円)	27年度	157,317	28年度	171,882	29年度	173,328
決算額(千円)	27年度	151,902	28年度	162,484	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県』ちばプラン」に基づいて、平成23年度から「ちばっ子『学力向上』総合プラン」を策定し、県下児童・生徒の学力向上を目指した。
 本プランでは、26の事業を事業内容によって、「読書活動や体験活動を通じた学習意欲の向上」「子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実」「授業力の向上による学びの深化」「学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進」「信頼される質の高い教員の育成」の5つの視点に基づき分類・整理し、取組内容の明確化にし、学力向上施策の推進を図った。

(2) 事業の成果

・県内180校の小・中学校(千葉市を除く)へ学習サポーターを派遣し、児童生徒の学習支援、家庭学習の充実が図られた。
 ・読書好きな児童・生徒を育成するため、小・中・高等学校向けに「読書指導の実践事例集」を作成し、各学校へ配付するとともに、Web配信した。読書指導の充実を通して、人間性豊かな感性を育む取組を行った。
 ・各教科・領域で卓越した指導力のある「魅力ある授業づくりの達人」を活用した研究・研修会、11月の学力向上月間を中心に「ちば『授業練磨の公開日』」として、公立小・中・高等学校及び特別支援学校での授業公開や、地域に根差した教員研修実施のため「若手教員育成推進員」活用事業など、授業力向上に向けた取組を実施した。
 ・国語、算数において児童がつまずきやすい学習内容に対応した冊子「学びの突破口ガイド」やWeb上の問題「ちばっ子チャレンジ100」等、小学生の学力向上に向けた教材や資料の啓発、活用推進を図った。
 ・中学校では「ちばのやる気学習ガイド」5教科を活用するとともに、このガイドに対応した評価問題のWeb配信を行い、中学生の学力向上に向けた取組を実施した。
 ・「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業では、高校生が近隣の小・中学校へ出向き、学習支援を行ったり、課外活動の援助などを行ったり、学習意欲の向上が図られた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・学力向上月間(11月)を中心に県下8か所で学力向上交流会を開催し、一層、学力向上施策の推進を図る。
 ・「ちばっ子『学力向上』総合プラン」については、年度ごとに見直しを行い、学力向上に向けた事業を充実し、それぞれの事業で成果を上げており、全体的に進展が図られている。
 ・各事業については、PDCAサイクルに基づいて事業担当者による個々の事業評価を実施し、それをもとに学力向上プロジェクトチーム会議により、各視点ごとに内部評価を行う。その内部評価をもとに年度末に「学力向上推進会議」で関係者評価を行い、本年度の事業成果を検証をするとともに、次年度以降の事業の改善を図っていく。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業 評価シート

計画番号 4

事業名	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施		
担当課・室・班名	体育課学校体育班	問合せ先(電話番号)	4108

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上, 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒を対象に、各学校で体育や業間、昼休み等の時間に楽しく集団で協力し合いながら、長縄連続跳び、連続馬跳び等の運動に取り組み、その記録を競いあい、ランキングをホームページに掲載し運動に対する意欲を高めることで、運動の機会を増やし、体力向上を図る。					
当初予算額(千円)	27年度	20	28年度	35	29年度	35
決算額(千円)	27年度	20	28年度	35	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<p>参加学校 348校(23校増) 報告回数 15, 870回(935回減) 県内公立学校の25. 7%(1. 7%増)の学校が取り組んだ。</p>

(2) 事業の成果

<p>・参加報告数は昨年度に比べ減少したが、参加校数は23校増加した。引き続き、運動に対する意欲・機会が持続され、体力向上につながる要因となっていると考える。</p>

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<p>・中学校の参加数38校(10. 0%)、高等学校の参加数7校(5. 5%)と参加校が少ない現状である。今後この事業がさらに生徒にとって魅力のあるものとなるよう種目と内容を見直し、検討していきたいと考える。</p>

4 委員意見

--

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 5

事業名	千葉県競技力向上推進本部事業		
担当課・室・班名	体育課スポーツ推進室競技スポーツ班	問合せ先(電話番号)	4104

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	計画的な選手の発掘・育成・強化や指導者の養成、スポーツ医・科学の活用などを行うとともに、国体で活躍した選手の能力を活用することや、千葉県国体会場地市町等と連携した強化拠点作りなど、国体で培われた土壌を活かしながら、地域スポーツ振興に資する。					
当初予算額(千円)	27年度	200,000	28年度	200,000	29年度	200,000
決算額(千円)	27年度	199,904	28年度	199,913	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 「岩手国体」において、天皇杯5位、皇后杯7位(8年連続入賞)という成績を収めた。
- 千葉県国体以降も高い競技力を恒常的に維持するため、優れた能力を持つ選手の発掘や、指導者の養成などを行い、競技団体と連携した強化活動に取り組んだ。

(2) 事業の成果

- 競技力向上推進本部による長期的・計画的な事業の推進と関係団体とのスムーズな連携により、選手の育成、指導者の養成、組織の整備などが図られ、本県の競技力は向上している。
- 国体やその他の国際大会で活躍した選手や監督等を学校や地域のスポーツクラブに派遣し、スポーツの好循環を図ることを目的とした国体選手能力活用事業を展開した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- この成果を一過性に終わらせることなく、しっかり引き継いで県民の活力・県勢の発展につなげていくため、国体で培われた土壌を活かし、さらに県民がスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送ることができるよう、競技力向上に向けた取組や地域と連携したスポーツ振興への取組を推進し、「スポーツ立県ちば」の実現に努めていく必要がある。
- 国民体育大会での継続的な入賞や、ジュニア選手の発掘・育成・強化など、競技力の恒常的な維持・発展を引き続き図る。また、トップアスリート活用事業等をさらに活発化し、国体における成果を県内に好循環させる。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 6

事業名	千葉フィールドミュージアム事業		
担当課・室・班名	教育庁教育振興部文化財課	問合せ先(電話番号)	4127

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援、健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	山・川・海のフィールド(現地)を「博物館」ととらえ、学びの舞台とするもので、中央博物館本館(山)、中央博物館大利根分館(川)、中央博物館分館海の博物館(海)、関宿城博物館(川)で実施する。					
当初予算額(千円)	27年度	6,128	28年度	6,304	29年度	6,188
決算額(千円)	27年度	5,777	28年度	6261	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・山のフィールドミュージアム(中央博物館本館)として「教室博物館」毎週1回実施、「観察会等」19回<参加539名> ・川のフィールドミュージアム(大利根分館)として「いきもの調査隊」2回<参加10名>、「水郷民俗調査隊」4回<参加64名> ・川のフィールドミュージアム(関宿城博物館)として「関宿城下を歩こう」5回<参加99名>、「河川敷のいきものさがし」2回<参加15名> ・海のフィールドミュージアムとして、「観察会等」62回<参加1,173名>、「野外実習授業」22回<参加680名>
--

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・参加者に、実際に現地を観、体験していただくことにより、千葉県の多様な自然と歴史を実感していただくことができた。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・山のフィールドミュージアム、及び海のフィールドミュージアムについては、小学生親子などの参加者も多く、基本方策のうち、「多様な活動機会の確保」という目的は達せられているものと思われる。ただし、天候等の条件や、安全確保のため1回あたりの参加者数を縛らざるを得ない点などから、今後大幅な参加者数の増加を見込むのは困難である。 ・川のフィールドミュージアムについては、通常の博物館の利用者同様、幅広い参加者が含まれている。

4 委員意見

--

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 7

事業名	青少年教育施設の運営		
担当課・室・班名	生涯学習課 社会教育振興室	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	少年自然の家、青年の家において自然体験や生活体験などの多様な体験活動の機会を提供し、団体生活を通じて青少年の育成を図る。					
当初予算額(千円)	27年度	468,084	28年度	467,374	29年度	469,832
決算額(千円)	27年度	478,196	28年度	466,588	29年度	
財源内訳	県単(○)	青少年教育施設管	県単(○)	青少年教育施設管	県単(○)	青少年教育施設管理費
	○	理費	○	理費	○	費

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

平成20年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	256,917人	団体数合計	2,728団体
平成21年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	271,333人	団体数合計	2,900団体
平成22年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	276,545人	団体数合計	2,873団体
平成23年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	312,759人	団体数合計	2,682団体
平成24年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	272,009人	団体数合計	3,405団体
平成25年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	267,950人	団体数合計	3,554団体
平成26年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	296,500人	団体数合計	3,759団体
平成27年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	289,436人	団体数合計	3,580団体
平成28年度	県立青少年教育施設(5か所)	利用者合計	282,665人	団体数合計	3,388団体

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度から県立青少年教育施設全て(5施設)に指定管理制度を導入し、運営経費を削減しながら、民間のノウハウを生かした主催事業やプログラムの情報提供を行っている。 ・5施設相互の交流や施設職員研修等を通して、施設相互の情報交換が図られている。
--

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の影響などにより利用者数、利用団体数ともに伸び悩んでいる。新規団体の確保につながる新規プログラムの作成や広報の拡大、閑散期の利用の増加などの策を講じている。また、学校等への出前講座や指導者養成事業の実施により、指導者に対する青少年教育施設のプログラムや利用の仕方等について、周知を図り、長期的な利用者増につなげる。 ・各施設に対し、職員の外部研修会への積極的な派遣や資格取得等、指導等のスキルアップを働きかけることにより、青少年教育施設としてのクオリティをより向上させ、利用者サービスの向上を図る。
--

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 8

事業名	子どもの読書活動推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育班	問合せ先(電話番号)	4072

1 事業の概要

柱	1 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	平成27年3月に策定された「千葉県子どもの読書活動推進計画(第三次)」に基づき、乳幼児期からの読書活動を推進し、子どもが自主的に読書に親しむことができる環境の整備を進めるため、発達段階に応じた推薦図書のパロディ向けリーフレットの作成・配付及び研修会・講座等を実施する。					
当初予算額(千円)	27年度	969(県立中央図書館80)	28年度	912(県立中央図書館80)	29年度	912(県立中央図書館80)
決算額(千円)	27年度	774(県立中央図書館80)	28年度	790(県立中央図書館80)	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・子どもの読書啓発リーフレット「子どもに読んでほしい本100選」の乳幼児向け及び小学生向けをそれぞれ3歳児及び小学校1年生の保護者に配付(乳幼児向け50,000部、小学生向け55,000部)
- ・千葉県子ども読書の集い(5月21日 千葉県文化会館で開催 実践発表、講演 参加者156名)
- ・公立図書館と学校の連携を図るための研修会(8月24日 千葉市民会館で開催。実践発表、講演 参加者217名)
- ・読み聞かせボランティア入門講座(県立中央図書館主催事業)

(2) 事業の成果

- ・発達段階に応じた推薦図書の紹介リーフレットを3歳児および小学1年生の保護者を対象に配付した。保護者には、ブックリストとして活用されるなど、家庭における子どもの読書活動の意義の啓発が図れた。
- ・子ども読書の集いでは、学校や家庭・地域での読書活動の意義や重要性について、理解と関心を深める機会とすることができた。
- ・公立図書館と学校の連携を図るための研修会では、図書館と学校の実践発表及び交流会を行い、参加者に効果的な連携の在り方について具体的な取り組みを周知することができ、連携の必要性を認識させることができた。
- ・県立中央図書館においては、読み聞かせボランティア入門講座を開催し、読み方などの技量向上など、人材の育成を図ることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・読書を通じて地域の子どもの育成を図るため、市町村における「子どもの読書活動推進計画」は必要不可欠である。県内の現状は、市の策定率が75.7%、町村が23.5%と策定の遅れが見られるため、県の第三次計画策定に合わせ、この周知とともに市町村に情報等を提供し、策定の支援をしていく。また、ブックスタート事業等(関連事業を含む)未実施の市町村には、実施へ向けての支援を行っていき、全市町村での実施を目指す。
- ・保護者に子どもの読書活動の意義と重要性を啓発するため、推薦図書の紹介のリーフレットを配付している。今後、乳幼児期からの読書活動の推進を図る上で、0歳児の保護者を対象に配付を検討し、子どもの読書活動の啓発をより一層進めていく。
- ・読み聞かせボランティア入門講座を開催し、人材育成を図っていく(県立中央図書館)。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号

9

事業名	通学合宿推進事業		
担当課・室・班名	生涯学習課・社会教育振興室・社会教育施設班	問合せ先(電話番号)	4070

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上 「多様な活動機会」の確保					
事業内容	異年齢の子どもたちが、地域の施設で一定期間寝食を共にしながら学校へ通うなかで、食事の準備や身支度等の日常生活の基本に関することを、子どもたち自身で行うことで、現在の子どもたちに不足している生活体験や、交流体験を行うことができる通学合宿を県内各地域で実施されるように推進する。					
当初予算額(千円)	27年度	—	28年度	—	29年度	—
決算額(千円)	27年度	—	28年度	—	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・市町村: 17市町村36事業(前年比1町減)
- ・県立青少年教育施設: 5所10事業(内3事業は市町村と共催)
- ・事業総計: 43事業(参加児童生徒数 1, 070人)

(2) 事業の成果

- 参加者や保護者、指導者から次のような声が聞かれ、事業の目的を達成することができた。
- ・普段家族がしていることが分かった。自分の事は自分でやるということを学んだ。
 - ・協力することの大切さが良く分かった。
 - ・異なる学校、学年、性別と一緒に生活することで得られる体験はとても貴重だった。
 - ・普段の生活を見直すよいきっかけとなった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・事業効果は認められているものの、地域における実態として宿泊施設がなかったり、運営に携わる事業スタッフが確保できないなどの課題が挙げられる。そこで、市町村担当者が集まる機会を利用して、実施の奨励、実施に向けた助言を積極的に行い、運営をサポートする体制を整える。
- ・公共の施設だけでなく、高校の合宿所を利用した事例など、特徴的な実践とともに過去の実施事例を県ホームページに掲載して情報提供することで、広く事業の普及に努める。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 10

事業名	「ちば・ふるさとの学び」活用推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課 教育立県推進室 推進班	問合せ先(電話番号)	4176

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	学校等が、より活用しやすいテキストとなるよう、適宜、統計資料の時点修正を行う。					
当初予算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	-
決算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

・「ちば・ふるさとの学び」の資料等について、改訂を行った。

(2)事業の成果

・資料等の改訂を進めた結果、学校等がより活用しやすいテキストとなった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・最新の資料に更新する等、より活用しやすいテキストとなるよう改訂を進める。

4 委員意見

--

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 11

事業名	ライフステージに応じた健康づくり推進事業		
担当課・室・班名	健康づくり支援課 食と歯・口腔健康班	問合せ先(電話番号)	2667

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援、健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	将来的な生活習慣病発症予防のため、ライフステージに応じた適切な食生活等について普及啓発を行うことにより、生活習慣病を予防し、生涯を通じた健康づくりを図る。					
当初予算額(千円)	27年度	500	28年度	500	29年度	506
決算額(千円)	27年度	440	28年度	406	29年度	
財源内訳	県単(○)	1/2国庫	県単(○)	1/2国庫	県単(○)	1/2国庫

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・企業と連携し、大学生を対象に野菜摂取量の増加等、より良い食生活の実践に向けたリーフレットの配付等による啓発を実施した。

(2) 事業の成果

・大学生へのアプローチ前後のアンケート結果では、主食・主菜・副菜を組み合わせることにについて「改善したい」と思う学生の割合が増加しており、意識変化が見られた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・本事業は、県が中心となり企画立案を実施した。県としての事業終了後も、継続して大学や企業等による地域内での連携した取り組みが進められることが課題となった。今後、地域内において、健康づくり・食生活習慣等の情報発信の取り組みを自主的に行う機関や組織の増加を図る。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 12

事業名	ちば食育活動促進事業		
担当課・室・班名	安全農業推進課 食育推進班	問合せ先(電話番号)	3092

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	県民が一人ひとりが自ら食育を実践することを目指した第3次千葉県食育推進計画を策定するとともに、市町村、関係団体、企業、ボランティア等と連携・協働した食育推進運動の展開を図る。					
当初予算額(千円)	27年度	4,813	28年度	5,130	29年度	4,703
決算額(千円)	27年度	2,394	28年度	2,603	29年度	
財源内訳	県単(○)	一般財源 3,988	県単(○)	一般財源 4,492	県単(○)	一般財源 4,703
		国庫 825		国庫 638	○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・第3次千葉県食育推進計画の策定公表
- ・県食育推進県民協議会の開催(2回)
- ・地域食育推進会議の開催(10地域10回)
- ・地域食育活動交換会の開催(9地域9回)
- ・大学生を対象とした食育体験プランの実施(2地区)
- ・学校参加型食育体験プログラムの配布(2,000部)
- ・食育推進啓発資料の作成・配布(7種類、10万部)
- ・食育活動事例集の作成・配布(3,000部)

(2) 事業の成果

- ・千葉県食育県民協議会等の意見を踏まえ、第3次食育推進計画を平成28年12月に策定・公表した。
- ・県食育推進県民協議会及び地域食育推進会議において食育関係者間の意見交換を行い、食に関する現状及び今後の取組について情報の共有化を図るとともに、より一層の連携促進を図った。
- ・ちば食育サポート企業が学校で出前授業などを行う「学校参加型食育体験プログラム」を実施するなど、企業と連携した取組を推進した。
- ・大学生が収穫や流通・加工等について産地で体験し、食育への理解を深めるとともに、生産者とのワークショップを通じて地域活性化の方策を検討する食育体験プログラムを2地域(香取・長生)で実施したところ、27名の参加があった。アンケートでは、「生産者の思いが実感できた」「今後とも地元の特産物の目を向けたい」などの声が聞かれた。
- ・6月と11月の食育月間には、市町村、関係団体、企業等と連携し、県内各地で行われる食育イベントを通じて、県民への普及・啓発を強化した。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・第3次千葉県食育推進計画に基づき、「ちばの恵み」を取り入れたバランスに良い食生活の実践による生涯健康で心豊かな人づくりを基本目標に、計画を推進する。また、本計画の特徴である世代別の課題に応じたきめ細かな食育の推進を関係部局と連携し図っていく。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 13

事業名	いきいきちばっ子食育推進事業		
担当課・室・班名	学校安全保健課 給食班	問合せ先(電話番号)	4095

1 事業の概要

柱	I 子供・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	「ちばの食」を通じて子どもたちの健やかな体を育むとともに、規則正しい生活習慣を身につけさせるため、食育ノートの活用や体験型の食育活動を行うなど、学校における食育を推進する。					
当初予算額(千円)	27年度	2,220	28年度	2,220	29年度	2,900
決算額(千円)	27年度	866	28年度	1,430	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・5つの教育事務所毎に食に関する指導事業地区別研究協議会を実施、1,031名が参加。各学校における食育の推進や衛生管理等の周知徹底を図った。
 ・食育指導推進拠点校20校のうち、10校で授業公開、授業研究協議会(情報交換等含む)を実施、食育推進のリーダーとしての資質向上に繋がるとともに地域における食育推進を図った。
 ・高等学校と連携した食育活動支援事業を、県立高等学校2校、小・中学校4校で実施。H27年度の小中高連携の実践等については、研修会等で紹介した。

(2) 事業の成果

・地区別研究協議会では、5教育事務所を会場に、合計1,031名(うち、管理職269名)が参加した。県の施策や推進拠点校等の実践について学ぶことができ、学校における食育の重要性を図ることができた。
 ・推進拠点校の実態や地域の特色を生かした授業公開では、参観した先生方の資質向上のほか、食に関する指導や体制づくりについて考える場となり、推進拠点校及び推進委員が地域での推進役として効果をあげた。
 ・高等学校と連携した食育活動支援事業では、高等学校の園場を効果的に活用し、支援校・協力校とともに、それぞれの発達段階に応じた関りの中で、体験活動を伴った食育を充実させた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・地区別研究協議会では、平成29年度から計画期間である「第3次千葉県食育推進計画」で示されている取組や施策等の周知を図り、各学校における食育がより一層充実するよう進める。また、衛生管理や食物アレルギー対応についても取上げ、事故防止に向け校内体制の整備が図れるよう、周知徹底を進めていく。
 ・栄養教諭を中心とした食育のよりよい実践の継続のため、今後も地区別研究協議会や公開授業研究会等で栄養教諭等同士の情報交換等の機会を絶やさないよう進めていく。
 ・高等学校と連携した食育活動支援事業では、様々な研修会等で実践を紹介する機会を設けるよう進める。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 14-1

事業名	豊かな人間関係づくり推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課 教育立県推進室 推進班	問合せ先(電話番号)	4176

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒に、思いやりの心を育て、コミュニケーション能力の育成を目指した「豊かな人間関係づくり実践プログラム」が県内小・中学校において、積極的に展開されるよう、活用推進に努める。					
当初予算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	-
決算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> 希望研修でプログラムを活用した授業実践についての演習(模擬授業)を含む講座を実施し、教員の授業力向上に取り組んだ。 改訂した実践プログラムの更なる効果的な活用を推進するため、県内5地域から小・中学校10校をモニター校として指定し、実践報告を取りまとめた。
--

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 教員経験2年目及び3年目の教員を対象としたプログラムの活用方法等について演習(模擬授業)を含む研修を実施したことにより、若手教員の授業力の向上及びプログラムの周知を図ることができた。 モニター校からの実践報告を整理することにより、プログラム活用の効果や更なる工夫点を把握することができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> より多くの学校でプログラムを活用した授業実践が推進されるよう、今後も若手教員の授業力アップのための取組を継続していく必要がある。
--

4 委員意見

--

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 14-2

事業名	豊かな人間関係づくり推進事業		
担当課・室・班名	教育政策課 教育立県推進室 推進班	問合せ先(電話番号)	4176
	指導課 教育課程室	問合せ先(電話番号)	4058

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	児童生徒に、思いやりの心を育て、コミュニケーション能力の育成を目指した「豊かな人間関係づくり実践プログラム」が県内小・中学校において、積極的に展開されるよう、活用推進に努める。					
当初予算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	-
決算額(千円)	27年度	-	28年度	-	29年度	-
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・初任者研修や希望研修でプログラムを活用した授業実践についての講座を実施し、教員の指導力向上に取り組んだ。
 ・改訂した実践プログラムの更なる効果的な活用を推進するため、県内5地域から小・中学校10校をモニター校として指定し、実践報告を取りまとめた。
 ・指導主事の学校訪問でプログラムの活用方法について紹介するとともに、年度末に実施状況調査を実施し、活用状況について把握することができた。

(2) 事業の成果

・小・中学校の初任教員や教員経験2年目及び3年目の教員を対象としたプログラムの活用方法等についての研修を実施することにより、若手教員の指導力の向上及びプログラムの周知を図ることができた。
 ・モニター校からの実践報告を整理・分析することにより、プログラム活用の効果や更なる工夫点を把握することができた。
 ・実施状況調査の結果を踏まえて、各教育事務所の指導主事が学校訪問の際に指導・助言し、活用について働きかけることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・より多くの学校でプログラムを活用した授業実践が推進されるよう、今後も若手教員の指導力アップのための取組を継続していく必要がある。
 ・新しい学習指導要領を踏まえた検討が必要となってくる。今後(平成30年度～)道徳が教科化されると教科書が採択され、年間の指導計画にも影響が出てくる。現在道徳の時間で実施している学校については、時間の確保が難しいため、その手立てを示していく必要がある。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 15

事業名	男女共同参画センター「男女共同参画講座等」の開催		
担当課・室・班名	男女共同参画課 企画調整班	問合せ先(電話番号)	2372

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	男女共同参画センターにおいて、男女共同参画への理解を深めるため、県民を対象に各種講座等を開催する。					
当初予算額(千円)	27年度	1,034	28年度	954	29年度	954
決算額(千円)	27年度	658	28年度	980	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- ・男女共同参画シンポジウム
- ・関係機関との連携セミナー
 - (1) 千葉大学との共催セミナー
 - (2) (公財)千葉県青少年協会との連携セミナー
- ・女性リーダー養成講座(全4回)

(2) 事業の成果

- ・女性だけでなく、男性、若年層にも参加しやすい講座を実施し、あらゆる人にとっての男女共同参画を意識した意識啓発をすることができた。
- ・関係機関との連携によるセミナーの開催により、日ごろ男女共同参画に馴染みのない方々に対し啓発を図ることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・男性にも参加しやすい講演テーマを設定したり、ワークショップを取り入れるなど、内容を工夫することで、男性や若年層の参加を促したが、全体的に男性の参加者が少ないことから、開催日や開催時間帯、周知方法等をさらに工夫する必要がある。
- ・連携セミナーについては、新たな連携先の開拓や地域での開催など、男女共同参画の意識をより広く身近に感じてもらえるよう検討する必要がある。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 16

事業名	こどもエコクラブの育成		
担当課・室・班名	循環型社会推進課 環境保全活動推進班	問合せ先(電話番号)	2760

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保					
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保					
事業内容	子どもたちの環境保全の意識を醸成し、環境への負荷の少ない持続可能な社会を構築することを目的として、子どもたちが、地域の中で仲間と一緒に環境保全活動や環境学習ができるように支援する。					
当初予算額(千円)	27年度	4,845の一部	28年度	4,845の一部	29年度	4,845の一部
決算額(千円)	27年度	4,788の一部	28年度	4,845の一部	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> ・9月22日に幕張メッセ国際会議場(千葉市美浜区)の「エコメッセ2016inちば」会場内で、こども環境会議を実施した。(参加者87人) ・こどもエコクラブの活動情報などを掲載した子ども向けのニュースレターを発行した。(1回、3,000部印刷)
--

(2) 事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> ・こども環境会議では、熱心に活動している千葉県内のこどもエコクラブの子どもたちが集い、環境活動の紹介を通じて相互の交流を深めることができた。 ・ニュースレターの発行により、こども環境会議の体験活動報告や各クラブの情報を広く発信し、各クラブの活動の活性化及び本事業への理解と参加促進を図ることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもエコクラブの登録数は年々増加しているが、活動が熱心なクラブと停滞してるクラブとで温度差が生じてきている。こどもエコクラブのサポーターに情報交換・交流の場を提供して、活動のための課題を共有し、解決を図っていく。
--

4 委員意見

--

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 17

事業名	若者の文化芸術活動育成支援事業		
担当課・室・班名	県民生活・文化課 文化振興班	問合せ先(電話番号)	2406

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援					
基本目標	1 自己形成支援 健康と安心の確保					
基本方策	1 「日常生活能力」と「学力」の向上「多様な活動機会」の確保					
事業内容	本県の将来を担う若者による文化芸術活動の推進を図ることを目的に、若者が主体となって実施する文化芸術事業を支援する。					
当初予算額(千円)	27年度	1,200	28年度	1,200	29年度	1,200
決算額(千円)	27年度	1,100	28年度	916	29年度	
財源内訳	県単(○)		県単(○)		県単(○)	
	○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

・若者が主体となって実施する県内6団体の6つの文化芸術事業を支援した。

(2) 事業の成果

・高校生が中心の学生劇団や、20代・30代を中心とした楽団など多くの若者の芸術文化への参加を促すことができた。今年度は、演劇、舞踊、美術、音楽など多様なジャンルの公演プログラムを支援し、それぞれの公演で子ども・若者の観客を増やすことができた。各支援事業の内容は充実し、それぞれ成果をあげることができた。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

・応募団体の固定化、応募団体数の減少が懸念される。新規応募団体を増やし、県内の若者の文化芸術活動の活性化を図るために、募集案内の検討や本事業の周知の仕方の工夫が必要である。
 ・若者の文化芸術活動を支援する県内他機関の他の活動とも連携し、事業を充実する必要がある。

4 委員意見

第2次千葉県青少年総合プラン 平成28年度事業評価シート

計画番号 18

事業名	消費者教育啓発事業		
担当課・室・班名	環境生活部くらし安全推進課消費者安全推進室	問合せ先(電話番号)	2292

1 事業の概要

柱	I 子ども・若者の健やかな成長と自己形成・社会参画支援						
基本目標	1 自己形成支援・健康と安心の確保						
基本方針	1 「日常生活能力」と「学力」の向上、「多様な活動機会」の確保						
事業内容	1. 消費者教育の推進及び消費者被害防止のための研修・啓発等を行う。(本課) 2. 消費者の自立を支援し、消費者トラブルを未然に防ぐため、消費者自立支援講座、サポーター養成講座を実施する。また、被害の拡大防止のため、消費者センターにおいて消費者情報の提供を行う。(消費者センター)						
当初予算額(千円)	27年度	5,566	28年度	5,887	29年度	5,336	
決算額(千円)	27年度	3,675	28年度	3,463	29年度		
財源内訳	県単(○)	一般財源	4,972	県単(○)	一般財源	4,882	
		国庫	594		国庫	1,005	
					県単(○)	一般財源	4,936
						国庫	400

2 事業実績・評価等

(1) 事業の実施結果

- 消費者フォーラムを開催 334人参加
学校における消費者教育(教員向け研修会の開催) 63人参加
高校生等若者向け啓発(冊子「オトナ社会へのパスポート」等作成)
テキスト93,000部 指導者向け手引書4,000部
- 消費生活サポーター養成講座 2回 159人参加
自立支援講座 15回 1,561人参加

(2) 事業の成果

・消費者フォーラムや自立支援講座等の開催により、高校生等の若者をはじめ様々な世代に対し、消費者教育や啓発を提供することが出来た。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

- ・消費者被害を防止するためには、子どもの頃から学校において金銭教育などの消費生活の知識を身につけるなど、ライフステージごとに消費者教育を受けることが重要である。
- ・また、学校において消費者教育を行うために、引き続き「教員向け研修会」の開催や、高校生等若者向け啓発資材(冊子)の配布を行う必要がある。
- ・さらに消費者問題に関する講座については、様々な主体に対し、積極的に周知を図っていく必要がある。

4 委員意見